

図 3.24

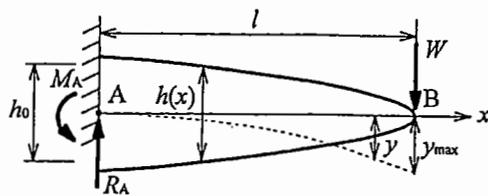


図 5.20

頁	行等	誤	正
1	下7	材料力学	材料力学 (strength of materials)
3	下3	切断法	切断法 (method of section)
6	1	垂直応力	垂直応力 $\sigma$
	6	リベットに、～作用している。	リベットで締結された板に、15kNの引張力が作用している。
	図1.3		欄外
19	8	この場合、～横断面である。	この場合、リベットにはせん断力 $F$ が作用し、せん断を受ける面はリベットの横断面積 $A$ である。
	13	機械設計	機械設計 (machine design, mechanical design)
24	図3.1		欄外
28	図3.6(a)	$X, X'$	$X, X'$ (立体)
29	1	断面 $X-X'$	断面 $X-X'$ (立体)
	下6	図3.7(a)に示すように～断面に生じる…	図3.7(a)に示すように仮想した断面の左側部分を押し上げ、右側部分を押し下げるときに、この断面に生じる…
33	図3.10(c)		図(c)に、図(a)と同様の位置にCを追加
36	下10	固定端Aを	固定端(点A)を
38	9	については正負も	については左右だけでなく正負も
54	図3.24(a)～(d)		欄外
	1	分布荷重と	集中荷重と
62	式(3.106)の第2式	$\frac{F(x)}{dx}$	$\frac{dF(x)}{dx}$
	下1	式(3.12)および式(3.13)と	式(3.10)および式(3.11)と
66	図4.6		欄外
67	6, 8	中立軸	中立軸 $z$
	下6	…および,	…および。
69	2～3	図4.7に示すような、～微小面積 $dA$ を考える。	図4.7に示すように、原点 $O$ を通る $y-z$ 軸の座標系において、はりの断面形状を考える。この断面の面積を $A$ とし、任意の位置 $(y, z)$ に微小面積 $dA$ を考える。
72	式(4.30)の第4式	$I_y + I_z$	$I_z + I_y$
74	7	式(4.36)より,	式(4.35)より,
76	7	$= d/2$	$= d_0/2$
81	4	最大曲げ応力は	最大曲げ応力は $\sigma_{max}$ であり
97	式(5.5)の第2式	$\frac{d^2y}{xd^2}$	$\frac{d^2y}{dx^2}$

頁	行等	誤	正
111	下5 下2, 3	$\sigma_a =$	$\delta_a =$ 第2式の最後に単位 m を追加
112	式(5.66)の 第2式	$\int_0^l w_0 dx$	$\int_0^l w_0 d\xi$
	式(5.67)の 第2式	$\int_0^l x w_0 dx$	$\int_0^l \xi w_0 d\xi$
116	7( $dy$ 2箇所)	$(dy/dx)_{x=0} = (dy/dx)_{x=l} = 0$	$(dy_1/dx)_{x=0} = (dy_2/dx)_{x=l} = 0$
	11( $y$ 2箇所)	$y(x=0) = y(x=l)$	$y_1(x=0) = y_2(x=l)$
121	1	$(dy/dx)_{x=0}$ および $y(x=0) = 0$	$(dy_1/dx)_{x=0}$ および $y_1(x=0) = 0$
	8	$y(x=l) = 0$	$y_2(x=l) = 0$
123	3, および式(5.149)2箇所	$\leq$	$<$
	7	$\geq$	$>$
124	図5.16(b)	$y_b$	$ y_b $
125	5	となる。...	となる。式(5.159)より $y_b$ は負の値をとり、上側にとわむ。
132	図5.20		欄外
133	1	図5.20に～形状になる。	図5.20に示すように、板の厚さは固定端から先端に向かって先細りする放物線形状になる。
	下4	たわみ量は2倍になる。	平等強さのはりのたわみ量は2倍になる。
158	下5	外力は	外力のした仕事は
160	式(8.8)	第5式を追加	$= \frac{1}{2} E \epsilon^2$
	2	衝撃を	衝撃荷重 (impact load, dynamic load) を
177	2	静的に(非常にゆっくり)	静的な(非常にゆっくりした)
	3	荷重が	荷重 (static load) が
	2	一方、棒に...	一方、衝突によって棒に...
179	2, 4, 7, 9, 下8, 2	$\sigma$ または $\sigma^2$	$\sigma_d$ または $\sigma_d^2$
186	図9.6(b)		点 p のなす $\angle qpr$ に $\theta$ を追加
187 ~ 198	図9.7(b), 9.8(a)(b), 9.12(b), 9.18(b)(c)		四角形要素の中心から $x$ 軸と直角になる上向きの $y$ 軸(実線)を追加
219 ~ 224	多数あり, 図11.1, 11.4中	$t$	$T$ (大文字)
	4	ここで $\alpha \Delta t > 0$ の	ここで $\alpha$ が正の場合, 温度が上昇する $\Delta T > 0$ の

頁	行等	誤	正
220	5(追加)	...生じることになる。	...生じることになる。一方、温度が低下する場合には $\Delta T < 0$ であり、熱収縮に対して正の応力、すなわち引張応力が生じる。

①

最新の正誤表がコロナ社ホームページにある場合がございます。  
下記URLにアクセスして[キーワード検索]に書名を入力して下さい。  
<http://www.coronasha.co.jp>

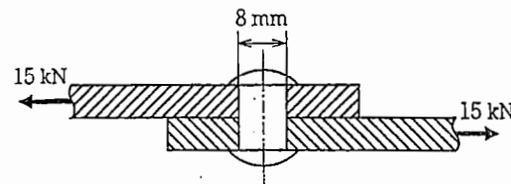


図 1.3

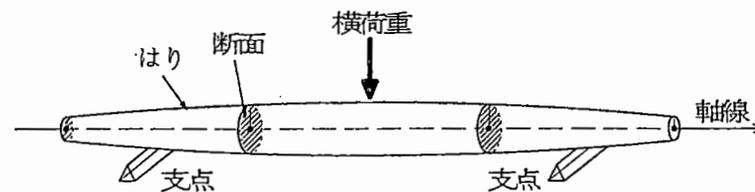


図 3.1

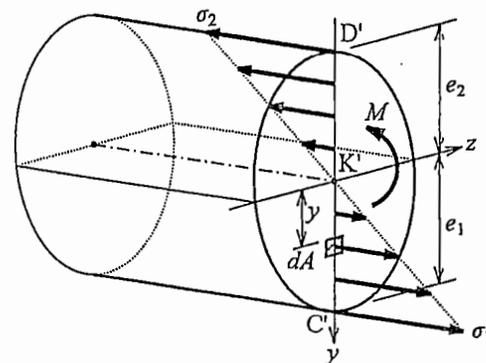


図 4.6